

救え! 東アジアの湿地と干潟

有明海、沖縄、韓国.....湿地保全を考えるシンポジウムと演劇公演の4日間

諫早湾干拓により「死の海」となりつつある有明海、ジュゴンも棲む貴重な海草場の埋立計画が進む沖縄の泡瀬干潟、韓国版の諫早問題とも言われている干拓工事に差し止め判決が下った韓国のセマングム干潟。危機に瀕している日本や韓国のウェットランド(湿地・干潟)を救うためにはどうしたらよいか。シンポジウムと演劇を通して、東アジアの湿地保全をアピールする4日間「東京ウェットランド・ウィーク」にぜひご参加ください。

9月27日(土) シンポジウム有明海の潮流変化と環境破壊

～ 諫早湾干拓をめぐる国との争点を検証する～

14:00～ 会場：在日本韓国YMCAアジア青少年センター（水道橋駅）
 主催：有明海漁民・市民ネットワーク / 諫早干潟緊急救済東京事務所 参加費：前売800円 / 当日1000円

9月28日(日) 国際湿地シンポジウム2003 in 東京

諫早・泡瀬・セマングム 救え! 東アジアの湿地と干潟

午前の部10:00～ / 午後の部13:30～ 会場：在日本韓国YMCAアジア青少年センター（水道橋駅）
 主催：日本湿地ネットワーク（JAWAN） 参加費：前売800円 / 当日1000円（午前・午後通し）

9月29日(月) 30日(火) NPO現代座「虹の立つ海」演劇公演

18:30開場 19:00開演（両日とも） 会場：東京芸術劇場小ホール1（池袋駅西口） 主催：NPO現代座
 入場料・前売：一般 3000円 大学生 2800円 高校生 2500円 中学生以下 2000円 親子 4500円
 （当日は各500円増） 27～28日のシンポジウムを含む3イベント通し前売券 4000円



諫早湾の排水門と潮受け堤防



沖縄の泡瀬干潟

©Yae Mizuma



韓国のセマングム干潟

©Shin'ichi Sato



NPO現代座「虹の立つ海」



©Taishi Hirokawa

特別講演 9月28日(日) 午後の部
 「生命の輪 東アジアの挑戦」 星川 淳

星川 淳(ほしかわ・じゅん) 1952年、東京生まれ。作家・翻訳家。82年より屋久島在住。人間と自然のより良い関係を探る著書を手がける傍ら、内外のさまざまな市民運動に関わってきた。屋久島環境政策研究所を主宰し、屋久町環境審議会会長も務める。著書に『環太平洋インナーネット紀行』、『屋久島水讃歌』、『地球生活』、『共済に坂本龍一 監修』、『非戦』、『読書に』、『ラヴロック』、『ガイアの時代』、『P・アンダーウッド』、『一万年の旅路』、『A・ネス他』、『地球の声を聴く』、『S・リッター他』、『イラク戦争』など多数。

後援 (財)世界自然保護基金ジャパン (財)日本野鳥の会
 (財)日本自然保護協会 有明再生全国ネット

お問い合わせ 東京ウェットランド・ウィーク実行委員会
 〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷3-11-4 バレドール目白205
 諫早干潟緊急救済東京事務所 TEL/FAX 03-3986-6490

ホームページ <http://www.jawan.jp/tww/>

救え! 東アジアの湿地と干潟

9/27(土)
14:00~

シンポジウム 有明海の潮流変化と環境破壊

~ 諫早湾干拓をめぐる国との争点を検証する ~

会場：在日本韓国YMCAアジア青少年センター(水道橋駅) 参加費：前売800円 当日1000円
主催：有明海漁民・市民ネットワーク/諫早干潟緊急救済東京事務所

あの衝撃的な諫早湾の潮止めから6年。東京のマスコミではほとんど取り上げられなくなってきたこの間にも、諫早干潟を失った有明海的环境は年々悪化の一途をたどり、多くの漁師が今や廃業寸前にまで追い込まれようとしています。

このため有明海沿岸各地の漁民はこの春、公害等調整委員会に対して「漁業被害の原因は国営諫早湾干拓事業にある」との原因裁定を求めて立ち上がりました。国との本格的な論争がいよいよ始まるようとしているこの時にあたり、公調委に公正な判断を求めるために諫早・有明海問題を徹底検証します。

漁業被害の直接的な引き金となっている赤潮・貧酸素水塊・海底へのドロ化などの環境悪化の背後には、潮汐・潮流の変化があるはずですが、はたして諫早で潮汐・潮流が実際に変化したのかしなかったのか。シンポジウムでは漁民の体

験とその理論的裏づけを明らかにしつつ、これを認めようとならない国側の主張に対して根本的な批判を加えていきます。

主なプログラム(予定)

決め手は潮汐・潮流～因果関係論争の現状

陣内 隆之(諫早干潟緊急救済東京事務所)

漁民アンケートが問いかけるもの

羽生 洋三(有明海漁民・市民ネットワーク)

最近における有明海の潮汐と潮流の変化

宇野木早苗(海洋物理学)

パネルディスカッション

「諫早主因に疑いなし! 国側主張の根拠を問う」

パネリスト：有明海漁民、宇野木早苗、羽生 洋三

程木 義邦(水環境学)

9/28(日)
午前の部 10:00~
午後の部 13:30~

国際湿地シンポジウム2003 in 東京

諫早・泡瀬・セマングム 救え! 東アジアの湿地と干潟

会場：在日本韓国YMCAアジア青少年センター(水道橋駅) 参加費：前売800円 当日1000円
主催：日本湿地ネットワーク(JAWAN)

1991年のJAWAN結成以来、湿地保護のホットな「現場」で開催してきた国際湿地シンポジウム。今年は諫早問題の正念場とも言える「原因裁定」が進行中の東京で開催します。環境や平和に関して積極的な発言を続けている屋久島在住の作家・星川淳さんや、韓国からのゲストも迎え、日本と韓国、東アジアの各地に向けて、東京から湿地保護のメッセージを発信します。

午前のプログラム(予定)

繁殖地のシギ・チドリたち

ロシア・チュコト南部の繁殖調査から 柏木 実(JAWAN)

各地の湿地・干潟からの報告(三番瀬、瀬戸内海など)

* * *

午後のプログラム(予定)

諫早湾・有明海 有明海の環境異変と干拓事業の今

菅波 完(諫早干潟緊急救済東京事務所)

泡瀬干潟 貴重な海草場・干潟と無謀な埋立事業

藤井 晴彦(琉球湿地研究グループ)

セマングム干潟 韓国からの報告(韓国からのゲストを予定)

特別講演 生命の輪 東アジアの挑戦

星川 淳(作家・屋久島在住)



原因裁定を申請した有明海沿岸の漁民(2003年4月)



屋久島の豊かな水の流れ



©Kayoko Hoshikawa

現代座「虹の立つ海」。50年後の世界で見たものは.....

9/29(月) 30(火)
開場 18:30 開演 19:00

NPO現代座「虹の立つ海」演劇公演

会場：東京芸術劇場小ホール1(池袋駅西口) 主催：NPO現代座
入場料・前売：一般 3000円 大学生 2800円 高校生 2500円 中学生以下 2000円
親子 4500円(当日券は各500円増)
27~28日のシンポジウムを含む3イベント通し前売券 4000円

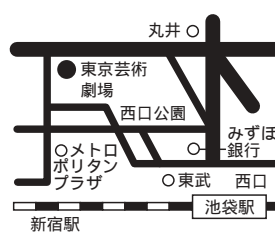
このお芝居は、地元諫早の山下弘文氏から依頼を受けて、諫早湾干拓事業をモチーフに創られた環境演劇です。

主人公は、長年にわたり干潟保護の活動をしてきた黒田良平。父親が埋め立て反対運動をやっているせいであつた家族がばらばらになつたと思ひ込み、父のもとを離れて行った息子、光男との再会。そして、家族はほんなことから50年後の世界にタイムスリップし、大変な状況と遭遇します。近いようで遠い50年後の世界で見たものは.....

この公演は、愛知県をかわきりに全国約130ステージの公

演を行っています。各公演地ごとに公演実行委員会を創り、諫早湾干拓事業から見えてくる環境問題を自分たちの身近な問題として考えていただきながら公演を実現しています。全国の皆さんからいただいた熱い思いを今回の東京芸術劇場公演でさらにふくらませ、お客さんと一体となる劇場を創りたいと考えています。

ぜひ、足をお運び下さい。http://www.gendaiza.org/に山下弘文さんの文章を載せています。公演に関しては、NPO現代座・松山(090-4790-0849)までお問い合わせください。



お問い合わせ・入場券ご予約
東京ウェットランド・ウィーク実行委員会
〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷3-11-4
パレドール目白205 諫早干潟緊急救済東京事務所
E-mail isahaya@msj.biglobe.ne.jp

東京ウェットランド・ウィーク ホームページ
http://www.jawan.jp/tww/

1997年の諫早湾閉め切りで死んだハイガイの殻(実寸は3~5cm)